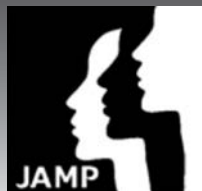


2024 年 12 月 1 日発行

一般社団法人 日本顎顔面補綴学会

Japanese Academy of Maxillofacial Prosthetics



Newsletter No. 40

Maxillofacial Prosthetics

発行人 松山美和

編集 広報委員会

事務局 〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷(株) 学会事務センター内

Tel : 03-5620-1953 Fax : 03-5620-1960

E-mail : max-service@onebridge.co.jp

第 42 回総会・学術大会案内



大会長 小山 重人 先生

(東北大学大学病院顎顔面口腔再建治療部 部長)

会 期：2025 年 6 月 20 日（金）～ 21 日（土）

会 場：東北大学星陵オーデトリウム

この度、第 42 回日本顎顔面補綴学会総会・学術大会を「顎顔面の新機軸」をメインテーマとして、2025 年 6 月 20 日（金）・21 日（土）に宮城県仙台市の東北大学医学部開設百周年記念ホール（星陵オーデトリウム）において、開催する運びとなりました。31 回大会を高橋 哲先生が、36 回大会は佐々木啓一先生が大会長として開催されましたので、ほぼ 5、6 年毎の仙台での開催となっています。

東北大学では 2005 年に、それまでの医学部附

属病院と歯学部附属病院を組織的に統合し、新たな部局として東北大学病院を創設しました。それ以来、医科歯科連携を推進する装置として、「顎顔面補綴」が医科と歯科を具体的に繋げる役割を担ってきました。6 年前のテーマは周術期からリハビリテーションを含めた顎顔面補綴におけるリエゾン医療に焦点を当てた「リエゾン顎顔面リハビリテーション」でしたが、今回はさらに進化したリエゾン医科歯科連携と、それを基盤にした顎顔面補綴の新しい方向性を討論し、「顎顔面補綴の新機軸」を示すことができればと期待しております。

今回の学術大会のプログラムは、香取幸夫東北大学病院副院長（耳鼻咽喉科・頭頸部外科）による特別講演、「医科歯科連携への AI 応用」や「嚥下治療センターにおける多職種連携」をテーマとしたシンポジウム、「顎補綴治療のストラテジー（上顎編）」を示す教育研修会、さらには第 2 回 PAP ハンズオンセミナーも企画しております。



会場：東北大学星陵オーデトリウム

第42回大会が、本学会のさらなる発展に寄与し、活発で有意義な情報交換の機会となりますようお願いしております。第41回大会からの間隔が短い開催とはなりますが、懇親の場としての会員情報交換会も用意しておりますので、多数の会員の皆様のご参加を心からお待ちしております。

理事長挨拶



松山 美和 理事長

本学会の理事長として2024年6月から第二期を務めております。ご挨拶がわりに第一期のおもな学会活動を報告し、第二期の方針について述べます。

2022年6月に新執行部になり（第一期）、従来からの活動に加え、関連学会との連携強化および地域歯科医療の支援を目標にしました。日本顎顔面インプラント学会と学術連携を図り、共同研究「広範囲顎骨支持型装置・広範囲顎骨支持型補綴に関する多機関共同研究」を2022年に開始し現在も継続しています。さらに、第41回総会・学術大会（2024年11-12月、福岡市）を同学会との合同開催としました。また、米国顎顔面補綴学会（AAMP）とは、2023年10月にSan Diegoにて調印・協定締結し、連携強化を図っています。コロナ禍で低迷した国際交流は復活し、第二期ではさらなる活発化を図ります。

第一期に新設の地域医療支援委員会は、地域歯科医師会等を対象に日常臨床に応用可能な「顎顔面補綴」診療のセミナーを複数実施しました。学会初のハンズオンセミナー「PAP治療ワークショップ」（2023年6月、名古屋）が好評でした。

ので、第二期ではこれを参考に同委員会主導のハンズオンセミナーの開催を継続したいと考えます。

医療委員会が中心となり、毎年、医療技術評価提案を行っています。とくに、同委員会主導で実施した顎顔面補綴治療のタイムスタディーは、Japanese Dental Science Review に発表され（Murase *et al.* 2024）、これが貴重な科学的根拠となって保険診療の変更へと繋がりました。

第二期でもいずれの学会活動も積極的に継続します。現在直面する課題として連続する運営費の支出超過があるため、今後は第一期新設の財務委員会が中心となり、その解消に着手していきます。会員のみなさま、さらなるご支援ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

名誉会員に聞く 3

（石橋寛二先生・岩手医科大学名誉教授）

この度、第5代本学会理事長、第11回総会学術大会長をお勤めになられた、石橋寛二先生から、ご寄稿を頂きました。ご協力を賜りましたこと紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

（広報委員会委員長 中島純子）

学会でのエピソード・印象に残っていること

1994年に盛岡市で開催した第11回総会シンポジウムの打ち合わせを前日に行った時のことです。「義顎」か「顎義歯」か、で延々と激しい討論が続き、そのまま翌日の本番に突入、この尋常で無い情熱が本学会の原点なのだと思います。

本学会に期待すること。現役学会員へ一言

医学界における本学会の立ち位置は極めて重要で、いつか必ず訪れる医歯一元化の時代に向けてリーダーシップを発揮する力を蓄えておいて欲しいと願っております。

会員個々が症例報告を活発に積み重ね、学術大会と学会誌上で討論し、学会がそれをまとめて普遍的な方向性を示して行くことが重要です。そのことが本学会を科学として更に発展させる原動力になるものと考えます。

会員施設の紹介

恵佑会札幌病院

恵佑会札幌病院は、消化器がんなど消化器疾患の治療に力を入れている施設で、1981年に札幌市白石区に開設し、2021年現在の新病院へ移転しました。

「悪性腫瘍の診断・治療・再発・終末期を一貫として行う」を病院理念とし、病床数は229床で、がん診療連携拠点病院に指定されています。

歯科口腔外科は1988年に開設され、現在、歯科医師9名（口腔外科7名、補綴2名）にて、歯科医療の後方支援病院としての役割を担いながら、歯科疾患全般に加え、口腔がん・顎変形症・インプラント・再植・移植・顎堤形成・顎補綴・周術期口腔機能管理などを行っています。

口腔がん術後の顎補綴治療は、長年に亘り数多くの症例を手がけています。口腔外科担当医から依頼があれば、補綴医2名が顎補綴治療を必要に応じて行なっています。上下顎欠損、舌口底欠損に対して必要があれば、インプラント支持の顎義歯を製作する場合があります。

顎顔面補綴学会の活動として、筆者は1996年から継続的に演題を提出していましたが、諸般の事情により2021年のWEB学会発表をもって終了しました。活動中は会員の先生方には大変お世話になりました。この場をもってお礼に代えさせていただきます。

（恵佑会札幌病院 杉原義之先生）



恵佑会札幌病院
（北海道札幌市白石区本通）

関連学会報告

71st AAMP American Academy of Maxillofacial Prosthetics

令和6年11月3日～5日に米国フロリダ州 Naples にて第71回アメリカ顎顔面補綴学会が「The World of Maxillofacial Prosthetics」をテーマに開催されました。10月後半の Hurricane Milton のために学会場が変更となりましたが、無事の開催となりました。

学術大会初日には、ポスター発表が行われ、日本からは東京科学大学の原口美穂子先生、谷 皇子先生、苗 夢暄先生、愛知学院大学の磯村美智子先生、UCLA の柴田瑠子先生5演題の発表がありました。また、2日目には日本顎顔面補綴学会からの招待講演として、愛知学院大学の吉岡が「Analysis of facial movement and skin texture for fabricating facial prosthesis using 4D facial expression models.」をテーマに講演をさせていただきました。昨年の AAMP では本学会が AAMP との Strategic Alliance を締結したこともあり、本学会の活動の簡単な紹介を含め講演をいたしました。今年は、新たにラテンアメリカ顎顔面補綴学会が AAMP との締結を行いました。

本国アメリカからの参加者はもちろんですが、カナダ、ブラジル、エジプト、トルコ、香港、シンガポール、インド、オランダ、ポーランド、ウズベキスタンなど世界中から参加者、演者があつまり、国際色豊かな大会となりました。また、デジタル技術を導入した顎顔面補綴の講演やワーク



愛知学院大学 吉岡 文先生の口演

ショップなども行われました。講演の中では、口腔内のスキャンや顔面のスキャンが従来よりも簡略化されている講演が目を引きました。

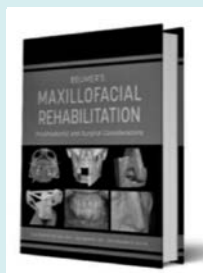
奇しくも、アメリカ大統領選挙の最中でしたが、選挙に負けない盛り上がりを見せました。2日目の夜に行われたレセプションでは、往年の理事長も多数参加され、Salvatore J. Esposito先生をはじめ多くのlegendにもお会いすることができました。学術大会全体では海外からの参加も含め234名の参加があり、盛会となりました。学術大会の詳細につきましては、AAMPのFacebookなどでも確認できます。次回の大会は2025年10月18-21日に米国のNew Orleansで行われる予定です。（広報委員 吉岡 文）



左から吉岡 文先生, Esposito先生, Sharma先生, 柴田瑠子先生, 磯村美智子先生

Beumer's Maxillofacial Rehabilitation Prosthetic and Surgical Consideration 電子版のご案内

アメリカのFoundation for Oral-facial Rehabilitationでは、現在\$34.99でLifetime memberになることができ、その特典として、Beumer's Maxillofacial Rehabilitation - Prosthetic and Surgical Considerations. のPDFと電子版にアクセスすることができます。（ハードカバーの本は、約\$70）ご興味のある方は、右下QRコードよりHPを参照してください。（広報委員 吉岡 文）



関連学会のご案内

- 第48回日本嚥下医学会総会・学術講演会
会 期：2025年2月21日～22日
大会長：丹生 健一
（神戸大学大学院耳鼻咽喉科頭頸部外科学分野）
会 場：神戸国際会議場
- 第43回日本口腔腫瘍学会総会・学術大会
会 期：2025年2月27日～28日
大会長：片 倉 朗
（東京歯科大学口腔病態外科学講座）
会 場：一橋講堂
- 第51回日本コミュニケーション障害学会学術講演会
会 期：2025年5月17日～18日
大会長：井崎 基博
（熊本保健科学大学保健科学部）
会 場：熊本保健科学大学
- International Anaplastology Association Conference
会 期：2025年6月12日～14日
会 場：Martin's Klooster, Leuven, Belgium



コンテンツ

第42回総会・学術大会案内	1
理事長挨拶	2
名誉会員に聞く3	2
会員施設の紹介	3
関連学会報告	3
関連学会のご案内	4

皆様のご意見をお寄せください。

一般社団法人日本顎顔面補綴学会 広報委員会
委員長 中島純子
委 員 猪原 健, 大木明子, 佐藤奈央子,
村上和裕, 宮本哲郎, 吉岡 文
E-mail: max-service@onebridge.co.jp